

## 山形豪雨被害に関して緊急災害調査を行いました(2013/7/21-22)

テーマ：緊急災害調査

場所：山形県大江町，南陽市など

山形県内では2013年7月上旬から梅雨前線に伴い継続的に雨が降り、7月18日未明から夕方にかけては県内全域で雷を伴った非常に激しい雨が降りました。7月1日から18日までの累積降雨量は多くの地点で7月の平年月降雨量を超えています。この影響により、河川の水位上昇、堤防・河岸決壊や越水などが生じ9市町で住民に避難指示・勧告が出されたほか、道路への土砂崩落や橋脚の冠水などにより3市町で集落の孤立状態が生じました（7月19日 18:00 現在）。今後も継続的な雨が予想されており被害の拡大が懸念されております。

当研究所では、河川氾濫による土砂の堆積状況およびインフラ（堤防・橋梁）の被害状況を把握することを目的として、7月21日と22日に緊急災害調査を行いました。参加者は、Jeremy Bricker 准教授，菅原大助助教，呉修一助教，木村裕行研究員（以上，災害リスク研究部門），阿部朋弥修士（東北大学特別研究学生）で構成されました。

今回は、山形県西川町の土石流現場の他、大江町の月布川，西川町の寒河江川や南陽市の吉野川などの洪水被害について、聞き取りを含めた調査を行いました。また、洪水氾濫による土砂の堆積状況の調査も行いました。今後、得られた情報やデータの解析を進め、様々な情報を国内外に発信し、社会に還元していく予定です。



橋脚周囲の洗掘状況（大江町）



月布川右岸の破堤状況（大江町）



月布川左岸の堤防浸食状況（大江町）



応急処置として土嚢を積み上げている様子（南陽市）



橋の越水により集落が一時孤立（大江町久保地区）



河川氾濫による畑地の被害状況（大江町）



河川氾濫土砂の堆積状況（大江町）



寒河江川右岸土石流の形跡（西川町）

文責：菅原大助，吳 修一（災害リスク研究部門）